

寄稿

矢板の民話を語る

矢板語り部の会 代表 渡瀬 マスエ

矢板語り部の会は平成十六年八月、市立図書館が開いた「語り部の養成講座」に参加した修了生十五人を中心に設立しました。初代代表に金子光子さんが就任し、栃木県民話の会連絡協議会・柏村祐司会長の指導で、語り部の基本を学びました。図書館の視聴覚教室を借りして、毎月第一・第三木曜日に定例の練習を行っています。

平成二十一年にこれまで語り継いできた矢板市の民話を編集し、矢板の語り部が語る「矢板の伝説再話集」を出版しました。

現在、会員十二名で、児童館での定期的な語りや、小学校、図書館、病院、公民館、福祉施設などでの出前講座で語らせていただいております。話を聞いてくださる子どもたちのキラキラとした瞳や、話にうなずきながら聞き入る高齢者の方々の、私たち語り部にとっても大きな励みになります。



た。平成二十三年には、設立七周年の記念口演、昨年は設立十周年の記念口演を開きました。

初代会長の金子さんを中心に活動を重ねてきましたが、三年前より、多忙な金子さんの後を引き受け、何もわからないままに、私が代表となりましました。私が矢板語り部の会と出会ったのは、やはり、図書館で開かれた講座に参加したのがきっかけでした。すでに経験豊富なベテランの皆さんに教えていただきながら、何とかやってまいりました。



これから、矢板に伝わる伝説や、昔話、各地に伝わる民話など、聞いてくださる方に少しでも楽しんでいただけるよう、日々精進したいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

私たちの「語り」が矢板市への郷土愛をほぐくむ一助になればうれしく思います。語り部の活動にご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひご入会ください。一緒に楽しい民話の世界を旅しませんか！

岡目八目



パン・お菓子作り講座
講師 野村 みどりさん

宇都宮市在住。
矢板市との関わりは、15年前から片岡公民館の社会教育指導員と子ども同士が同級生という縁で、その方から依頼を受け、講師として教え始める。
そして、8年前から矢板公民館でも講師としても講座を開設。
趣味は、ガーデニングと水泳。

●矢板の第一印象は？
人がよく、優しいです。すし、礼儀正しいです。あいさつもよくしてくれます。また、教室では、みなさん素直で控え目ですね。

●矢板のお気に入りのお味はありますか？
リンゴが一番おいしいです。種類がたくさんありますが、全部おいしいですね。

十月二十八日に矢板教室で蜜の入った紅玉を使ったタルト・タタリ



ン（アップルパイの一種）を作りましたが、おいしくできました。

●矢板のお気に入りの場所は？
まだ一番のお気に入りは見つけられていないのがちょっと残念ですね。

けれど、道の駅やいたの野菜類を買ったり、リンゴソフトクリームも大好きです。それも、信生庵のおそばもおいしくて好きです。

また、矢板に来ると石関直売所の矢板産肥料（堆肥）を買います。農産物、加工品は、作り手の顔が見えることとで安心して買うことができます。

●教室の生徒に上手に教えるヒケツはありますか？
教える前には、何度もシミュレーションを欠かしませんね。お料

●若さのヒケツを教えてくださいませんか？
とにかく自分を高め、



常に笑顔でいるようにしています。三年前から週五日で毎日一キロメートルを泳いでいます。また、韓流ドラマや映画鑑賞で心をときめかせています。

夫が温泉好きなので、週一回は夫婦で温泉巡りをします。もちろん矢板の城の湯にも行きます。目的地までの道中の寄り道や名物を味わうのも楽しみの一つです。(M・W)

編集後記

健康長寿を目指す栃木県人の健康寿命は男性70.6歳とのこと。今号で紹介した鈴木幸市さんは88歳の今、健康維持のために強い信念を持った生活をされています。毎日の運動を欠かさず、好きなアルコールも限度を定め、週2日の休肝日を設けているそうです。すごい方ですね。